

令和六年度  
入学試験  
第一回

国  
語

令和六年二月十日

京華女子高等学校

※解答用紙は本冊子にはさんでいます。



【問題は次のページから始まります】

□ 次の漢字に関する問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナをそれぞれ正確な漢字に直しなさい。

- ① ゴウ|カイ|な投げ技を決める。
- ② オ|しい人材を失った。
- ③ セ|キ|ニ|ンの所在を明らかにする。
- ④ 他|国|とド|ウ|メ|イ|を組む。
- ⑤ 代|々|の|カ|モ|ン|の由来を知る。
- ⑥ 彼|の|シ|ュ|ワ|ン|が光る仕事だ。

問二 ①～⑥の——線部の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① 砂上の|楼|閣|にすぎない。
- ② 社会|慣|行|の調査を行う。
- ③ 権力を維持しようと|画|策|する。
- ④ |閱|覧|は自由だ。
- ⑤ 彼女は|温|和|な人だ。
- ⑥ 橋を|架|ける工事。

□ 次の【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】を読んで後の問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

<sup>注1</sup> Z世代にはネタバレ消費と呼ぶべき習慣が根付いている。2021年6月に「Business Insider Japan」に配信された「Z世代に流行する『ネタバレ消費』とは？」<sup>注2</sup> ※ 若者のホンネ」という記事では、「観たい映画や今度行くライブの前身、友達に渡す誕生日プレゼントなど、何でも事前に『ネタバレ』することがトレンドとなっている」というZ世代の動向が報告されている。

理由は「※ から」。

残酷シーンが含まれる映画なら、その事実を先に知っておくことで、流血が苦手だから観ないでおこうという選択ができる。クライマックスが感動で泣けるのなら、泣く気満々の心構えで観に行きたい。<sup>注2</sup> 前出の女子大学生Gさんも「犯人がわかった状態で観るほうが楽しめる」と言っていた。感情のコンディションを完全に整えておけるからだ。

ライブの場合、先にセトリリストを知っておけば「あの曲なんだっけ？」とならないで済むし、プレゼントは事前に欲しい物を相手に聞いておいたほうが間違いない。「せつかくもらったけど、自分の趣味に合わなくて使えなかった」といった悲劇が避けられる。

ゆえに、一時期流行ったサプライズの誕生日パーティーは絶対にご法度だ。<sup>注3</sup> 写真撮影には万全のメイクや髪型で挑みたいし、連れて行かれるレストランによって、着ていく服も変わってくる。ネタバレしておくことで、関係者全員の満足度が高まるのだ。

「ミレニアル世代が老体験に価値を求めるとすると、<sup>注4</sup> 遺体験に価値を求めなのがZ世代。彼らは先のわからないことや想定外の出来事が起きて気持ちがアップダウンすることを、ストレミと捉える傾向が強い」（同記事）

ストレスはリスクに他ならない。避けられるものなら避けたい。ミステリーもので犯人を先に知っておけば、想定外の出来事が起きて気持ちがアップダウンするのは避けられる。それもひとつのリスク<sup>注5</sup> ヘッジだ。

そのリスクには当然、「回り道」や「コスパの悪さ」も含まれる。<sup>注6</sup>

すべての若者がそうだとは言わないが、とりわけZ世代を中心とした層に、「回り道」や「コスパの悪さ」を恐れる傾向は強い。

仕事でコスパを追い求めるならともかく、趣味など心の<sup>おもむ</sup> 赴くままに好きにやればいい……はずだが、手っ取り早く重要作品を押さえた<sup>注7</sup> い、ポイントを知りたいと、彼らは切に願う。なぜそこまで、無駄なことに時間を割くのを恐れるのか。

森永氏は、昔と比べて子供をめぐる環境が全体的に親切<sup>注7</sup> になっている点を指摘する。

「大人が子供の気持ちを先回りして察しようと動く。子供たちは、とにかく大事に大事に育てられているので、痛みが弱い。失敗したり、

怒られたり、恥をかいたりすることに対して、驚くほどに耐性が低い」

Z世代の親世代は2022年現在、40〜50代。子育てのトレンドは「締め付ける」より「優しく」だ。友達感覚で子供と買い物に行った  
り、恋バナをしたり、トレンドを共有したりする親も多い。

加えて、学校も子供たちに強く言わない。体罰はもつてのほかだが、少しでも厳しく言えばモンスターペアレントが怒鳴り込んでくるから  
らだ。

このことは、職場の新入社員にも顕著だ。年長世代が「懐ふところの深さを見せたつもりで口にする「失敗してもいいから、まずはやってみろ」  
は、彼らにとっては「いじめ」にも近い。その結果失敗して、上司から失敗の理由を指摘されたら、「そんなに言うんだったら、先に正解  
を教えてくださいいいじゃないか……」と感じるからだ。

「そういう上司は乱暴認定され、慕われません。見えている失敗を前もって説明してくれない、不親切で嫌な人と思われるんです。『や  
つてみて、失敗しないとわからない、身にならないことがある』という理屈は通じません。すべての新人がそうではないですが、ここ最近  
増えた傾向です」(森永氏)

なにより彼らは、失敗したこと自体に大きく傷つく。失敗したことが周囲に知れて恥ずかしいから傷つくのではない。「誰に気づかれる  
でもないような自分の失敗ですら、彼らはいやがるんですよ。つまらない作品に当たって時間を無駄にすることも、そこに含まれます」  
(森永氏)

このことは、「回り道」や「タイプが悪い」を恐れる彼らの気質に直結している。

つまらない作品に当たって時間を無駄にすることは、失敗<sup>②</sup>。そのような価値観は、一体どのようにして育まれたのか。背景として、大  
きく2つが考えられる。

ひとつめは、キャリア教育だ。

1999年に中央教育審議会がキャリア教育を提唱して以降、中学・高校・大学では、社会に出て就業することを踏まえた教育が推進さ  
れてきた。それはそれで意義のあることだが、そのマインドが行きすぎれば、「自分の就きたい職業にとって、この教科は時間をかけて学  
ぶ必要がない」という判断を、早々に下すことにもなりかねない。

③ 学問にまで、タイプを求めるようになるのだ。

ただ、それは仕方のないことだ。大学で「5年後、10年後の自分のロードマップを描け」などと指導されれば、それを達成すべく、在学  
中から綿密めんみつなライフプランやキャリアプランを組み上げる必要がある。悠長ゆうちやうに回り道などしている暇はない。「とりあえず就職してから、

自分の適性や本当にやりたいことを模索していこう」が許されない時代であり、世相なのだ。

「無論、大人は効率を発揮する局面と、発揮しなくていい局面を理解していますが、子供にはその区別がつきません。10代のうちからそんなふうにならなければならぬ、すべてを効率化しなきゃいけないと思ってしまうすよね」（森永氏）

「ABEMA Prime」にZOOM出演した立教大学大学院客員教授・牛窪恵も、「タムパ（タイパ）最優先になった理由」のひとつとして、2000年代頃から学校や職場でも時短・効率を求めはじめた風潮を挙げた。

2020年7月7日には、1976年生まれの探検家・角幡唯介かくはたゆうすけのあるツイートが話題になった。若い記者からインタビューで、「角幡さんの探検は社会の役に立ってないのでは」と聞かれて 1 したのだという。

これを受けて行われたインタビューで同氏は、相手が20代くらいの地方紙の記者だったことを明かし、こう述べた。

「『本当にみんな、そんなこと思ってるんですか？』と聞き返したら、自分たちの世代は社会への還元とか生産性の向上を考えるべきだという思考を強いるような『圧力をすごく感じるんです』と」

記者が本当に20代であれば、ゆとり世代もしくはZ世代だ。キャリア教育の一環として、「自分の学びやスキルや行動が、社会のどんな役に立っているのか」を詰めて考えさせられてきた可能性は高い。さぞ「圧力」<sup>④</sup>に苦しめられたことだろう。

同記事ではインタビューが「進路学習の冊子で将来の夢を書き込む欄に『その夢はどのように社会に役立ちますか？』との問いがあり苛いら立だっていた、という大学生のリプライが印象的でした」とも言っている。

夢にすらコスパを求める、というふうにも読める。

もうひとつが、SNSによって同世代と自分とを容易に 2 できてしまうことだ。先に指摘したSNSの常時接続は、会ったこともない自分と同世代の活躍を可視化させた。そのことは相当量のストレスも運んでくる。まだ何も成し遂げていない自分を、 3 なしに焦らせてしまうからだ。

「Twitterやインスタグラムでは、友人たちはもちろん、同世代でいちはやく何かを成しとげたり、注目を浴びたりする人の動向が、いつでも視界に入っている状態にある。常に横を見ています。だから、自分がちよつとでも効率の悪いことをしたら、同世代から遅れてしまった、つまり失敗してしまったと思いがやすい」（森永氏）

横よこなんか見なければいいじゃないかと言ったところで、彼らの最重要コミュニケーションツールであるSNSを手放すわけにはいかない。Z世代の人間関係の大半がそれで成り立っているし、就活の情報収集にも絶対に必要だ。

「SNSで自分の上位互換ごかんの人をすぐに見つけられちゃうから、そのジャンルで勝てないと思ったらずぐ諦あきらめちゃう」（ゆめめ氏）の悲劇

だ。

森永氏は、ある大学の講義で受けた衝撃を話してくれた。

「『無駄なことをたくさんやるのが、アイデアの発想につながる』と、ごく当たり前のことを話しました。すると、出席者に提出してもらった感想文の半分以上に『無駄なことをしてもいいんですね！ 励みになりました』といった主旨のことが書かれていたんです。そんなにも無駄なことをしてはいけないと追い込まれているのかと、驚きました」



コスパ（タイプ）重視の人たちは、とにかく無駄撃ちを嫌う。最小の労力で最大のリターンを得ることに無上の喜びを感じる。

脚本家の佐藤大氏は、「手っ取り早くオタクになりたい」若者について、こんな感想を抱いた。

「オタクという い だけが欲しい、というのは、なるほどと思います。スマホゲームで言うと、ろ で最強の い を手に入れて は 化する、<sup>注8</sup>なるう系の小説システムそのものじゃないですか。異世界転生したらオタクでした、プレイヤーの い は最強です、みたいな。そのためには、10秒飛ばしも早送りも辞さない」と

「アビリティ」とはキャラクターの能力、「ガチャ」とは攻略に有利なアイテムがランダムで提供される抽選システムのこと。「チート」は既出だが、要するにラクをしてゲームを進めるための手っ取り早い方法、ズルのことだ。

実際、タイプ重視の人はチート（的なもの）が大好きだ。「これさえやっておけば副業で儲かる」情報商材、「これさえ読んでおけばOK」のビジネス書や啓発書のリスト。最小の労力で最大のリターンを得られる、楽な方法。効率主義の行き着く先は、チートにほかならない。

もちろん、ビジネスに効率を求めるのは大事だ。そこには「収入を上げたい」「出世したい」「いい生活をした」といった、切実な目的がある。労働時間×時給で完全に天井が決まっている収入体系に 4 が差した結果、一発逆転チートに希望を見出すのもわからないはない。

ただ、それを趣味にまで求めるのか。

オタクと言わずとも、何かの作品に心酔すれば、その監督や脚本家や出演者の過去作をつぶさにチェックしたくなる。その監督と作家的が似ている別の監督の作品にも手を伸ばす。アニメであれば、キャラクターデザインやスタジオつながりで、観たい作品がどんどん出てく

る。どんどん掘り進む。

しかし、タイパを重視する彼らの多くに、そんな発想はない。当然だ。観るべき作品リストを消化した以上、目的は達成できたのだから。「彼らとしては、それでオタクというスペックを獲得したので、もうそれ以上掘る必要がない。個性はゲットできた、自己紹介欄に書くネタもできたので」（森永氏）

先のビジネス書や啓発書を例にとれば、普段から本を読まない人ほど、「この1冊で、このの本質を言い切った系の本」が大好きだ。「これさえ観ておけばOK」のリストを求めるタイパ重視の人たちと似ている。

この種の人たちは「友人に共感しなければ」と焦り、個性のための趣味が欲しくてオタクに憧れるが、無駄は排したい。その結果、チートを求める。これらが行為として現れたのが、倍速視聴であり、10秒飛ばしであり、ファスト動画の存在であり、「観るべきリストを教えてください」という要望だ。

彼らを「けしからん」と説教したり、「つまらない奴らだ」と憐れんだりするのは簡単だが、そう説教したくなる年長世代が若かりし頃には、キャリア教育の圧もSNSもなかった。

もうひとつ同情すべき点がある。今の大学生には時間とお金がない。ヒアリングの途上で、こんな訴えも届いた。

「私たちは親世代が大学生だった時に比べて、学校が出席にとっても厳しくなりました。金銭的な問題でアルバイトに時間を割く子も増えましたし、卒業後の奨学金の返済を考えて、早い段階でインターンやボランティアなど就職活動に時間を割く子も少なくありません。それがマジョリティだと思います。やるべきことが昔の若者より増えてしまい、作品を嗜む自由な時間、可処分時間が少なくなったことが、映画やドラマを早送りする一因だと私は考えています」（大学4年生）

ひとつの指標となるのが、親から下宿生への仕送り額の変化だ。

東京、神奈川、埼玉、千葉にある9校の私立大学（短大を含む）に入学した新入生の家計負担の状況をまとめた「私立大学新入生の家計負担調査」（2021年4月調査）によると、直近年である2020年度の「月平均仕送り額から家賃を除い



図6 大学新入生の月平均仕送り額から家賃を除いた生活費

※東京、神奈川、埼玉、千葉にある9校の私立大学を対象  
東京私大教連「私立大学新入生の家計負担調査 2020年度」をもとに作成

た生活費」(図6)は1万8200円で過去最低だった。ちなみに過去最高は1990年の7万3800円。30年前の1990年とさえ、ちよほど彼らの親世代が大学生だった時期にあたる。

この30年間で、大学生が親からもらえる生活費は注10) X 以下にまで減っているのだ。物価の上昇や消費税率のアップなども考えると、実質的な下落差はさらに大きいだろう。この背景にバブル崩壊後の低成長、いわゆる「失われた30年」や、そこに起因する世帯収入の停滞、貧困家庭の増加などがあるのは明らかだ。

首都圏で一人暮らしをしながら月2万円弱で食費、水道光熱費、通信費、被服費、交際費、娯楽費などをすべて賄うのは 5 の業である。彼らは遊ぶ金が欲しくてバイトをしているのではない。必要最低限の生活を送るために、やらざるをえないのだ。当然ながら、趣味にお金はかけられない。

バブル期ど真ん中、1990年の標準的な大学生のように、スキーや合コンや海外旅行に遊び興じる余裕は、現在の大学生にはない。

【ア】ヒアリングしたある女子大学生は、平日午前5時から9〜10時頃まで時給の高い早朝バイトをこなし、それから大学に行って授業を受け、夜8時に帰宅。自炊して食事をとり、風呂に入って就寝する毎日を送っていた。

【イ】そんな中、趣味と呼べるものの中で最もリーズナブルなのが、映像の視聴だ。

【ウ】ただ、観られるのはいいが、時間もない。

【エ】YouTubeやABEMAやTVerは無料。有料のサービスでさえ、月に数百円から千数百円で無尽蔵に観られるのだから。

【オ】早起きなので飲み会など行けるわけがない。学校の課題は授業の合間に済ませる。

その合間を縫って、大量のアニメやドラマを観る。とにかく忙しい。

仲間内でのコミュニケーションのため、LINEグループの和を保つため、30年前に比べればおそらく何十倍、何百倍もの本数が流通するコンテンツを、次々とチェックしなければならぬ。その量は早送りしなければ消化できないし、慎重にリスクヘッジしなければ、ただでさえ貴重なお金をドブに捨ててしまう。

彼らはとにかく余裕がない。時間的にも、金銭的にも。そして何より精神的に。

(稲田豊史『映画を早送りして観る人たち ファスト映画・ネタバレ——コンテンツ消費の現在形』による)

- 1 Z世代……1990年代後半から2012年頃に産まれた世代のこと。
- 2 前出の女子大学生Gさん……本書に登場する大学2年生の女性を指す。連続ドラマなどを「早く結末が知りたかった」という理由で、途中の話をスキップし、最終話を先に観たというエピソードが紹介されている。
- 3 セットリスト……コンサートで演奏される曲目や曲順。
- 4 ミレニアル世代……1981年から1997年の間に産まれた世代のこと。Y世代とも呼ばれる。
- 5 リスクヘッジ……リスクを予測して、リスクに対応できるように備えること。
- 6 コスパ……コストパフォーマンス（費用対効果。かかった費用・コストに対して得られる効果）の略。「タイプ」も同じように、  
タイムパフォーマンスの略。
- 7 森永氏……博報堂DYメディアパートナーズ メディア環境研究所 森永真弓氏。
- 8 なろう系の小説……『小説家になろう』というサイトに投稿される、何の変哲もない主人公が異世界に行く、あるいはそこに転生すること、突如ヒーロー扱いされるといった類の物語の総称。
- 9 ファスト映画……映画の映像を無断で使用し、字幕やナレーションをつけて10分程度にまとめてストーリーを明かす違法動画のこと。
- 10 バブル崩壊……1991年から1993年頃にかけて起きた、株価や地価（土地の値段）の急落のこと。

## 【文章Ⅱ】

社員の多くがZ世代である某ベンチャー企業の方の話を聞いたことがあります。管理職に配られるマニュアルに、Z世代に接する時の態度の鉄則として、「9割褒めて1割は改善提案」と書いてあるそうです。

つまり、自己承認欲求の強いZ世代には、彼らの欲求を満たすために9割は「褒め」なくてはならず（仮に褒めるところがなくても）、残りの1割は「こうしたらもっと良くなるのに」と、決して否定ではなく、肯定した上での改善提案をするのが彼らを成長させるためには効果的だということです。この割合を間違えると、彼らが辞めてしまう確率が上がるようです。

叱ってばかりの厳しい上司は言わずもなですが、多くを語らず、俺の背中を見て学べ、といった昭和スタイルの上司も、180度考えを変えないといけません。「見て学べ」どころではなく、「9割褒めろ」の時代になっており、褒めもせずに多くを語らない上司は、ひどい場合、「育児放棄」ならぬ「若手放棄」という新しいレッテルを貼られ、SNS上で晒さらされる時代になっているかもしれません。

コロナ禍でテレワークをする人が増えていますが、よくいろいろな企業から、子供のいる上司世代は家事と育児に時間を割けるのでテレワークを望み、仕事を対面で細かく教えてほしい新入社員はテレワークを望まず不満がある、という話を聞きます。入社して最初からテレワークの新入社員は気の毒ですが、これもZ世代の承認欲求を表しているように思います。

また、過剰に自意識が高くなっているZ世代の多くは、昔の世代の感覚で言うところの「いじり」を受け付けない人が多くなっています。「いじり」とは、『大辞泉』によると「他人をもてあそんだり、困らせたりすること」だそうで、芸事の世界などでは「客いじり」（漫才などの芸で、特定の観客と会話したり、舞台に上げたりして巻き込むこと）とも言い、古くからある言葉のようです。

よく「いじめ」と「いじり」の境界線について議論がなされ、愛があれば「いじめ」ではなく「いじり」だと言われたりします。

しかし、過剰に自意識が高いZ世代には「いじり」はほぼ通じなくなっており、それを「シャレが通じない」などと思っはいいけません。

思春期からずっと家庭でもSNS上でも「いいね」をもらって生きてきている、いわば「プチスター気取り」なZ世代の若者たちに自分がおとしめられる面もある「いじり」が通じるはずがありません。仮に愛があっても、です。同世代の友達同士のいじりであれば問題ないケースもあるでしょうが、年齢が離れていけば基本的にいじりはダメ、と考えておいた方が無難です。

今、日本全国の小学校では、いじめにつながる可能性があると「あだ名禁止」のところが増えているようですが、先ほどのベンチャー企業の方曰く、実はZ世代社員に対してもパワハラと捉えられる可能性があるため、基本的にあだ名を禁止にしているそうです。

（原田曜平『Z世代 若者はなぜインスタ・TikTokにハマるのか?』による）

問一 【ア】と【オ】は文章の順序が違っています。論理的に正しい順序に並べ換えて、記号で答えなさい。ただし、【ア】は四番目にくるものとします。

問二 空欄 1 5 に入れるのに最適な語を、それぞれ次のア〜コの中から一つ選び、記号で答えなさい。ただし、同一の語を二度以上用いないこととします。

ア 否定	イ 嫌気	ウ 驚嘆	エ 拒絶	オ 至難
カ 絶句	キ 対称	ク 何気	ケ 比較	コ 非難

問三 空欄 ※ に共通して入る最適なことばを次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 余裕がない
イ 泣きたくない
ウ 失敗したくない
エ 驚きたくない
オ ネタバレしたくない

問四 — 線部①「犯人がわかった状態で観る」とありますが、それはなぜですか。解答用紙の「〜から。」につながる形で、【文章I】から三十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの符号を含む場合は一字と数えます。

問五 — 線部②「そのような価値観は、一体どのようなようにして育まれたのか」について、けいこさんは、— 線部②以降の内容を整理するため次の〈メモ〉にまとめた。〈メモ〉の **A**・**B** に入る最適な文をそれぞれ次のア〜カの中から一つ選びなさい。

〈メモ〉

● Z世代の「回り道」や「タイプが悪い」を恐れる価値観はどのようにして育まれたのか。

① キャリア教育

「どうしてキャリア教育がそのような価値観を育むことになったのか？」

キャリア教育の中で、「5年後、10年後の自分のロードマップを描け」などという課題が出される。在学中からライフプランやキャリアプランを組み上げる必要がある。

← **A**

② SNS

「どうしてSNSがそのような価値観を育むことになったのか？」

SNSの常時接続によって、会ったこともない自分と同世代の活躍が可視化されてしまう。それを見る中で、同世代から遅れないように行動する。

← **B**

ア 決められた人生を生きているため、回り道をしたという意欲がなくなる。就職が決まった後も、自分の向いている仕事ややりたい仕事を考えられなくなる。

イ のんびりと、人生の回り道をしている暇がなくなる。就職が決まった後も、自分の向いている仕事ややりたい仕事を考えられなくなる。

ウ 自分で自由に生きるためのキャリアプランやロードマップを描くようになる。就職が決まった後も、自分の向いている仕事ややりたい仕事は何か考えるようになる。

エ 自分が効率の悪いことをしたら同世代から遅れてしまう、失敗してしまったことになるため、回り道をする選択はしないようになる。

オ 自分が効率の悪いことをしたら同世代から遅れてしまう、失敗してしまったことになるため、それを恐れて自分のSNSに頻繁に自分の活躍を投稿することでストレスを感じないようにする。

カ 自分が効率の良いことをすると同世代からの嫉妬などもあり、ストレスが溜まってしまう。そうならないために、SNS上では同世代の活躍を見ないようにする。

問六 ———線部③「学問にまで、タイプを求めるようになる」とありますが、この事例としてふさわしくないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海外で働くという気持ちがないため、英語の勉強を全くしなくなった。

イ 日本文学の研究がしたいという志を立て、他の教科はやらず国語の勉強だけに取り組んだ。  
ウ 将来弁護士になりたいという気持ちがあり、弁護士に必要な法学のみを熱心に学習した。

エ 学校の課題である問題集の基本問題を解くのが面倒なため、解かずに先生に提出した。  
オ 栄養士の資格を取得したいと考え、大学入試に必要な科目以外は手を抜いて取り組んだ。

問七 ———線部④「圧力」とありますが、どのような圧力ですか。最適なことばを、【文章Ⅰ】の「◆◆◆」以降より八字で抜き出しなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの符号を含む場合は一字と教えます。

問八 空欄    にあてはまる最適な語の組み合わせとして正しいものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |       |   |       |   |       |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | い | ガチャ   | ろ | アビリテイ | は | チート   |
| イ | い | ガチャ   | ろ | チート   | は | アビリテイ |
| ウ | い | チート   | ろ | ガチャ   | は | アビリテイ |
| エ | い | アビリテイ | ろ | ガチャ   | は | チート   |
| オ | い | アビリテイ | ろ | チート   | は | ガチャ   |

問九 空欄  に当てはまる数字を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 2分の1      イ 3分の1      ウ 4分の1      エ 5分の1

問十 次の会話は、けいこさん、はなこさんが【文章I】の読後感を話し合ったものです。会話文に引かれた傍線部A～Dで、本文に書かれた内容と合致しないものがある。傍線部A～Dの中から合致しないものを一つ選び、記号で答えなさい。

けいこ：Z世代についての文章だったね。「ネタバレ消費」という指摘は面白いと感じたわ。Z世代が、回り道やコスパの悪さを嫌うという点については納得してしまったわ。普段家で動画を見るときも、倍速で視聴してしまうもの。Z世代が、<sup>A</sup>趣味の領域でさえ、無駄なことに時間を割くのを恐れるという心性がみられるのね。

はなこ：回り道や遠回りを恐れる気質が、キャリア教育とSNSにあるというのは読んで面白かったわ。キャリア教育の中で、<sup>B</sup>自分が組み上げたライフプランやキャリアプランに必要な科目は学ばなくなるのではないかという部分は面白い考えだと思ったわ。

けいこ：SNSの常時接続によって、回り道や遠回りを嫌う気質が育まれていったという視点も斬新よね。私たちZ世代にとってSNSはコミュニケーションツールとして日々活用されているけれど、<sup>C</sup>自分の活躍と同世代の活躍がSNSによって見えるようになったことが、「失敗したくない」「無駄なことをしたくない」という考えに結びつくとは考えられなかったもの。

はなこ：Z世代を指導する年長世代の人たちも大変そうね。「失敗しないとわからないこともある」といって、新人に「失敗させる」というのは、今では良くない指導法のかな。Z世代は、「目に見えている失敗は、事前に説明して欲しい」と思うこともあるんだろうね。

けいこ：<sup>D</sup>そういう風に考えるのは、あらゆるZ世代に共通して言える傾向なんだろうね。文章を読んでいて、私もZ世代ということもあるから、少し気分が悪くなる場所もあったわ。「全員が全員そうじゃないよ」と言いたくなかったもの。

はなこ：Z世代が他の世代からどのように見られているか他の本も読んで考察していきたいね。

問十一 【文章Ⅰ】を読んだはなこさんは、「Z世代」について書かれている【文章Ⅱ】を読んで調べ学習に取り組んだ。(i)・(ii)の問いに答えなさい。

(i) 【文章Ⅱ】 〓線部「これ」が指し示している内容を、【文章Ⅱ】の言葉を用いてまとめなさい。

(ii) 【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】に書かれていることをはなこさんは〈ノート〉に次のようにまとめた。〈ノート〉内にある空欄①に当てはまる最適な語句をそれぞれ【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】より指定字数に従い、抜き出しなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの符号を含む場合は一字と数えます。

〈ノート〉

● Z世代の特徴的な考え方

【文章Ⅰ】

会社の上司が言う「失敗してもいいから、まずはやってみろ」はZ世代にとっては不親切で嫌なことだと思う。

← (そう思う背景は?)

Z世代は ① 二字 したことで自体に大きく傷つく。誰にも気づかれるでもないような自分の ① 二字 でも嫌がる。

① 二字 したくないという思いが、 ② 八字 ことを恐れるZ世代の価値観に直結している。

【文章Ⅱ】

会社の上司がZ世代を褒めもせず多くを語らない姿勢でいると、Z世代は上司が若手教育を放棄したと思う。

← (そう思う背景は?)

Z世代は ③ 三字 が高く、家庭やSNSを通して「いいね」をもらって生きてきた。強い自己承認欲求を満たすため、上司からの指導は否定の言葉ではなく、肯定の言葉をかける必要がある。